

マンション独自の 自主防災組織の確立を

自主防災活動とは、住んでいる地域を「安全で住みよい、災害に強いまち」にするための住民を主体とする活動です。

災害に強い安全な地域社会をつくるためには、住民一人ひとりが、日頃から自主防災の意識をもって、災害が発生した場合に的確に対処できるような基礎的知識を身に付けておくことが大切です。

大規模な災害がおきたときには、電話が不通になり、道路交通網、電気、ガス、水道施設が寸断されて、消防などの防災関連機関の活動が制限されることが予想されます。

その様な事態に備え各マンション単独の自主防災組織を確立し、日頃から災害時における情報収集伝達、避難体制の整備、防災用資機材の備蓄などを進め、防災訓練を積み重ねておくことが必要です。

各自自主防災組織には、行政より

(1) 自主防災組織運営補助金

(2) 防災訓練助成金

(3) 防災用資機材購入の4分の3

等々の助成があります。消火器詰め替え費用の4分の3

自主防災活動の三原則

(1) 楽しく参加できること。強制的な活動ではなく、少しでも多くの住民が参加できるように工夫が必要です。

(2) 政治色や宗教色抜きであること。

(3) 活動目標や内容が明確・適切であること。抽象的な目標だけでは効果がありません。

中高層マンションの 防災上の課題

中高層マンションは基本的に耐火構造になっており、一般住宅に比べてハード面では災害に対する強さを持っています。しかしソフト面ではいくつかの課題があります。

(1) 昼間人口指数の低さ。これには女性の戦力化、女性の防災意識の強化が必要で

す。

(2) 潜在的危機の認知度の低さ。マンションは比較的地震や災害に強いという安心感があるので、危機把握の強化が求められます。

(3) 中高層マンションの実状に応じた防災訓練内容と回数の強化。所属している町内会の訓練参加だけでは不十分で、各マンションに即応した訓練を実施する必要があります。

(4) 行政への依存の面で、各マンション単独で自主的に行政と連絡のとれるルートを確立しておくことが必要です。

自主防災組織の 基本的日常活動

(1) 年間防災計画、規約の作成、組織の役割りを明記しておく。

(2) 公的防災機関などとの連携を確保する。

(3) 随時、災害防止の啓蒙活動をする。

(4) 消火器などの点検と設置場所の周知徹底を行う。

(5) 初期消火訓練の実施（特に消火器の使い方の訓練）

(6) 災害時の公的避難場所の確認と避難誘導訓練の実施。

(7) 組織内の高齢者、乳幼児、病人などの把握

(8) 応急医薬品及び防災資機材の備蓄と点検

防災資機材整備の 一般的な例

〔消火関係〕消火器・バケツ・ヘルメット・鳶口

〔避難誘導関係〕電池式メガホン・ロープ・懐中電灯・リヤカー・誘導旗

〔救出・誘導関係〕救急用医療用具・担架・テント・毛布・梯子・自家発電機。投光器

〔情報収集・伝達関係〕携帯ラジオ・仮設掲示板・筆記用具

〔給食・給水関係〕炊飯用かまど・ガスバーナー・釜・鍋・燃料・ビニールシート・大小ビニール袋・簡易トイレセット

*資機材は、訓練などを通じてできるだけ日常的に使い慣れていることが大切です。

災害時の公的救援活動は即時には期待できません。少なくとも二、三日は自主的対応が出来るよう対策しておくことが必要と思われれます。

マンション再生のお手伝いをして四半世紀

あなたのマンションに新しい生命を吹き込みます

～Total Renewal～

大規模修繕から設備改修・内装リフォームまで充実したアフターメンテナンス体制で培った信頼が世代を超えた永いお付き合いを実現しています

Kenso 建装工業株式会社

マンションリニューアル事業部
〒105-0003 東京都港区西新橋3-11-1
TEL 03-3433-0503 FAX 03-3433-0535
URL <http://www.kenso.co.jp/>

